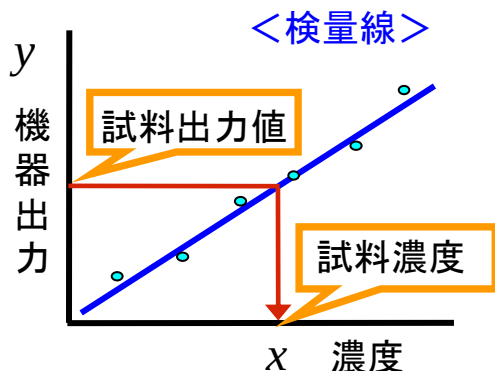


JCSS標準ガスの使い方

なぜJCSS※標準ガスが必要なの？

※：計量法トレーサビリティ制度

○分析計で試料を測定するとき



- ・機器からの出力値は、濃度ではなく電流値や電圧値等である。
⇒濃度に換算する必要がある。
- ・換算に必要となるのが標準ガスである。
- ・正しい操作を行っても使用する標準ガスの信頼性に問題がある場合、得られた測定値は信頼できない。

・精確な標準ガスは、計測の信頼性向上に必須
・JCSS標準ガスは、国家標準にトレーサブルな信頼性の高い標準ガス

JCSS標準ガスは何に使われているの？

法令、省庁のマニュアル、JIS(日本産業規格)などに多数引用されている。

○計量法施行規則 第3条(濃度計の使用方法)

○環境省 環境大気常時監視マニュアル 第3章 大気汚染自動測定機 3.2 校正 3.2.3 標準ガス

○JIS規格

- ・ JIS K 0050 化学分析方法通則
- ・ JIS K 0055 ガス分析装置校正方法通則
- ・ JIS K 0114 ガスクロマトグラフィー通則 等



様々な測定装置の校正に使用されている

- ・自動車排ガスの測定
- ・ゴミ焼却炉の煙道排ガス分析
- ・環境測定
- ・医療用酸素の純度分析
- ・温室効果ガスの分析
- ・工場などの排ガス分析
- ・ガス検知器



●MRA対応JCSS標準ガス

国際MRAとは、多国間の試験所及び校正機関認定に関わる相互承認取り決めである。

現在、ILAC(国際試験所認定協力機構)やAPAC(アジア太平洋認定協力機構)などにおいて、この取り決めが行われている。

国際MRA対応認定事業者によって製造されたJCSS標準ガスの校正証明書は、相互承認署名機関の間で同等として取り扱われるため、国際間の取引において、重複して行われていた試験を省くことが可能となる。



一般財団法人 化学物質評価研究機構
Chemicals Evaluation and Research Institute, Japan

東京事業所 化学標準部

〒345-0043 埼玉県北葛飾郡杉戸町下高野1600番地

TEL:0480(37)2601 FAX:0480(37)2521

E-mail csd@ceri.jp URL <https://www.cerij.or.jp>